

第3回近畿周産期精神保健研究会プログラム

～周産期のいたみ～

■会期:2018年2月17日(土)～18日(日)

17日(土)13:00～17:00 グループワーク(事前申込み要)

18日(日)9:00～17:30 研究会(定員:約300名)

■開催場所:愛仁会看護専門学校6階ナイチンゲールホール(JR高槻駅徒歩7分)

■入会参加費:個人:5,000円、法人:30,000円(5名まで参加費免除)

*抄録集は当日500円にて販売致します。

*事前に入会登録(入会金5,000円)をして頂くと第3回参加費・抄録代は無料です。

■会長 南 宏尚(社会医療法人愛仁会高槻病院)

■プログラム

1日目

時間	内容	担当者
13:00～17:00	グループワーク(事例から学ぶ) テーマ: 「出生前診断された子どもと家族への支援」	司会: 高槻病院 臨床心理士 小 寺智子 鈴木佳子

2日目

時間	内容	担当者
9:00～	会長挨拶	
9:05～10:00	会長講演 『痛みと早産児の脳』 高槻病院 小児科 南 宏尚	座長: 高槻病院 小児外科 西島 栄治
10:00～11:30	特別講演 『こども虐待とトラウマ』 山梨県立大学 西澤 哲 教授	座長: 高槻病院小児科 南 宏尚
11:30～12:30 (講演45分)	ランチョンセミナー 東邦大学医療センター 総合周産期母子医療センター長 与田 仁志 教授	座長: 和歌山県立医科大学 窪田 昭男
12:30～14:45 (12:30～12:55) (12:55～13:20) (13:20～13:45) (13:45～14:10) (14:10～14:40)	第I部 1. 妊娠期に伴う“痛み” 1) 命の育みと痛み 2) 出生前診断を受けた夫婦の思い 2. こども(胎児・新生児)が経験する “痛み”の緩和 1) 医師の立場から —Cure— 2) 看護の立場から —Care— 質疑応答及び意見交換(30分)	座長:和歌山県立医科大学 産科医師 南佐和子 シンポジスト: 大阪市立総合医療センター 母性看護専門看護師 峰博子 シンポジスト: 関西医科大学遺伝カウンセラー 佐藤 智佳 シンポジスト: 大阪府済生会吹田病院 新生児集中治療室科長 小川 哲 シンポジスト: 京都第一赤十字病院 新生児集中ケア認定看護師 荒美 香

14:40～15:00	休憩	
15:00～17:05 (15:00～15:25) (15:25～15:50) (15:50～16:15) (16:15～16:40) (16:40～17:00)	第Ⅱ部 3. 誕生後に家族が経験する“痛み” 1) こどもの予後に対する母としての受け止め 2) 家族間又は医療者と家族間での意見の違いからくる葛藤 4. 医療者が経験する“痛み” 1) 集中治療における医療者の葛藤 2) 喪失と悼み 質疑応答及び意見交換（20分） まとめ 和歌山県立医科大学 窪田 昭男	座長：加古川中央市民病院 臨床心理士 岡田由美子 シンポジスト： 大阪母子医療センター 臨床心理士：川野由子 シンポジスト： 高槻病院 臨床心理士：小寺智子 シンポジスト： 高槻病院 新生児科部長：池上等 シンポジスト： 京都産業大学主任カウンセラー 米虫圭子
17:00～17:20 17:20～17:25	総会 閉会挨拶 次期会長挨拶	和歌山医科大学窪田昭男 高槻病院 南 宏尚 和歌山医科大学 産婦人科 南佐和子